

水田雑草 防除のポイント

耕種的な防除(基本編)をしっかり行い、水管理(応用編)を上手に行いましょう!

基本編 春先のほ場の準備は入念に



畦畔の補修を確実にし、代かきも丁寧にやって田面を均平にし、減水深の少ない水田にしましょう。

⇒水稲用除草剤の利用に当ってはラベルをしっかりと確認しましょう!

除草剤の対象雑草、使用時期、使用量等を確認し、間違いのない散布を行いましょう。



応用編 水稲用除草剤の散布後は水管理を確実に

水稲用除草剤の散布後3~4日間は水の移動を行わないようにしましょう。

水稲用除草剤は水に溶けて土壌表層に膜を作って除草効果を発揮します。効果を高めるため、水稲用除草剤散布後はしっかりと水管理を行いましょう。

水稲用除草剤を散布する前にあらかじめ畦畔のひび割れや、モグラ、ザリガニ、ケラ等の動物による穴を補修しておくことも大切です。



※できるだけ田面が露出しないようにほ場の準備をする。

生育期間中は雑草の発生状況をしっかり確認し、必要に応じた防除により被害を抑制しましょう!

水稲用除草剤の効果が持続する間は極端な落水は止めましょう



- 水稲の茎葉が繁茂して土壌に直接光が届かなくなるまで、除草剤で雑草発生を抑制する必要があります。
- 現在最も多く使用されている一発処理剤は35~40日間除草効果を維持しますが、水稲が繁茂する前に水田を落水すると雑草が発芽しやすくなります。過度の落水は避けましょう。
- 初期除草剤を使用した場合は、除草効果の持続期間が短いので中期剤も利用する体系処理を行い、雑草の発生を抑制しましょう。

生育期間中に雑草が発生した場合は

中干し前後の時期に中後期除草剤を使用しましょう。なお、発生している雑草の種類や生育量により使用する中後期剤の選択が必要になる場合がありますので、注意が必要です。

中後期剤のうち液剤と落水して散布する粒剤は、落水して雑草に直接散布し、散布後数日間は入水を控えましょう。粒剤のうち湿水した状態で散布するものは、散布後数日間は落水や掛け流しを行わないようにしましょう。



水田雑草の被害

- 斑点米カメムシを水田内に呼び込みます。
- 雑草に肥料養分を吸収されるため減収します。
- 雑草を残すことにより翌年も再び雑草が発生します。
- 何よりも収穫・調製作業を困難にします。

監修・原図：岩手県農業研究センター

岩手県病害虫防除連絡協議会

NOSAI 岩手 TEL019-651-1411



岩手県で問題になっている水田雑草

主な一年生雑草等



ノビエ アメリカセンダングサ イボクサ タウコギ クサネム 表層はく離

主な多年生雑草



クログワイ ミズガヤツリ シズイ ヘラオモダカ オモダカ エゾサヤクサ アゼムシロ

除草剤が効かない? ~SU系除草剤抵抗性雑草とその防除~

☆SU系除草剤抵抗性雑草とは?

水稲用除草剤の主成分として広く用いられているスルホニルウレア系化合物(SU剤)は主要雑草に幅広い効果を示します。しかし数年に渡り連用するとSU剤が効かない抵抗性雑草が出現・増加することがあります。

☆対策および防除上の注意点

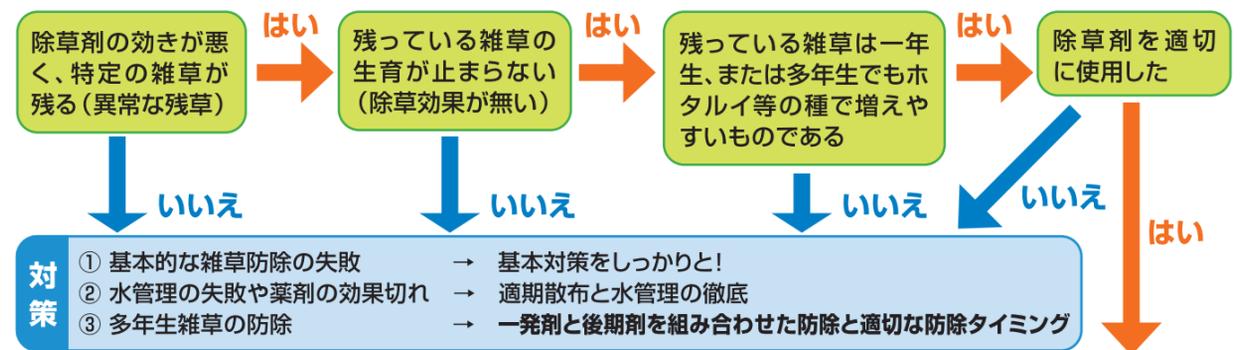
SU系除草剤を連年施用し、適正な使用をしても特定の雑草が増加し大量に残ったときは、SU系除草剤抵抗性雑草である可能性が高いと思われます。

岩手県で出現している主なSU抵抗性雑草



アゼナ(一年生) ホタルイ(多年生) コナギ(一年生)

このほかミゾハコベ、キカシグサ等も発生しています。



SU抵抗性雑草の疑いがある場合は

- ①抵抗性の検定は農業改良普及センターにお問い合わせください。
- ②翌年の発生の増加を抑えることはもちろん、他のほ場への拡散を防止するためにも中期剤または後期剤(茎葉処理剤)で必ず防除しましょう。
- ③発生翌年はSU系成分を含まない一発処理剤を利用したり、初期剤と中期剤または後期剤による体系処理が有効です。

